



TITLE:

山本先生を偲ぶ

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. 山本先生を偲ぶ. 經濟論叢 1941, 52(6): 747-749

ISSUE DATE:

1941-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/131549>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷二十五第

月六年六十和昭

哀辭 故山本博士遺影及署名

論叢

支那の農家と田賦附加税……………經濟學博士 八木芳之助

佛印幣制論……………經濟學博士 松岡孝兒

企業者勞働費論……………經濟學士 大塚一朗

貨幣流通期間と平均生産期間……………經濟學士 青山秀夫

時論

重慶政府の戰時物價政策……………十龜盛次

記事

山本博士逝く

追憶文

神戸 正雄 末廣 重雄 牧野 虎次 中瀬古六郎 本庄榮治郎

谷口 吉彦 松岡 孝兒 大塚 一朗 堀江 保藏 穂積 文雄

高木 眞助 蟠川 虎三 石川 興二 金持 一郎 岡本 清造

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十二卷總目錄

山本先生を偲ぶ

松岡孝兒

◇この春は大へん不順な時候だつた。全くこんなときにはからだの弱つてゐるひとの生活はなみ大ていではあるまいと、實は一日に四十度近くも昇降する佛印や海南の氣溫に一ヶ月近く悩まされて歸つて來た自分はいくへんつぶやいたことであつたか。ところへ十三日晚おそく山本先生長逝といふしらせが來た。全く時候異變のせいだと自分は思つてしまつた。

先生を偲ぶすがは一二にして盡きない。今そのうちの二三を拾つてみよう。

◇近頃は別しても大陸ばやりであるが、先生御存職中はよく支那の話をきいたものである。そしていつも

自分達はその記憶の細かで確かなことに驚かされた。

先生が支那へ行かれたことはたしか五回と記憶してゐるが、自分など最近までに丁度五回目の支那旅行をやつたことになる。併しああした先生のやうな事細かな記憶は一向に駄目である。其上先生の話は調子がつくと、微に入り細を穿ち、まことに文字通りじゅんじゅんとして倦むところを知らずといふ風であつた。

講壇では先生は大てい椅子につかれ下むき加減に片肱つかれ、顔をかるく手でおさへられて講義された。植民政策の本ができる迄は實にたんねんに手が入れられてあるらしい縦書のノートが一枚一枚くりかへされて行つてゐた。

教壇の先生に残された思出は先生の風呂敷包みと眼鏡とである。先生はいつも風呂敷包みのキチンと結んだのをかかへて來られた。自分には先生の鞆をさげられたのは記憶にない。學生の風呂敷包みが次第に本人のズツク鞆になつた頃になつても先生の風呂敷包みは終始一貫されてあつたやうに覺えられてゐる。

先生の眼鏡もまた中々印象深い存在であつた。舊い眼鏡の型がだん／＼改められて神戸先生がロイドの眼鏡をかけられるやうになつても先生は依然としてもとの橢圓型のものをかけられてゐた。そしてまたその橢圓型の眼鏡がまたとてもよく先生の風采を慈父のやうに懐しいものにしてゐたやうであつた。定年退職の折鹿子木畫伯が筆とつた記念肖像畫などは全くさうした眼鏡のなつかしさで一杯なやうに記憶してゐる。

◇またこんなことがあつた。丁度一九三一年の秋イギリスが金本位制の停止をやつたときのことであつた。其の直前に滿洲事變が火蓋をきつた秋だつたので世界情勢に關して今日よりも異常な興奮を感じてゐた自分は、一日先生を研究室へ伺ひイギリス經濟將來の見透しについて酒々とやつたものであつた。靜かに聽いて居られた先生は徐ろに「老大イギリスの蓄積力はなかなかたやすくはまゐらないぞ」と謂はれたのであつたが、その後のこととも思ひあはすればこれは自分には深い憶出の一つである。先生はその時とにかく自

分がかつて見たときといふことを非常に力強く表現されたのであつたが、その時の自分の意見が机上調査のものであつただけ特に印象深かつたやうに覺える。そして最近そのイギリスはその最後の足掻を極東に於いて日本との對立の裡にやつてゐる。當時日本金融資本が量に於いても實に於ても貧弱だつたことは私の東亞金融理論構成に異常ななやみをもたらしめてゐたのであつたので、それがイギリス經濟の倒壊を過半に期待してたためでもあつたであらうか。全くその頃は世界の景氣は滿洲からといふ本さへ出版された時であつたが、それにしてもイギリス經濟の倒壊を慎重に取扱ふことができたことは全く先生の賜ものであつたと思つてゐる。

◇植民政策もかつては帝國主義侵略政策の一手段として論議されてゐたが、最近のやうに國防國家又は其同防衛圈設定の上に缺くべからざるものとなり、殊に東亞新秩序とか東亞防衛圈とかといふものが盛んに取扱はれるやうになると、かうした植民政策といふ古い

革囊にもらるべき新しい酒がいろいろに考へられる。これらの點について、先生の博識と廣聞とは實に自分等のたのもしい糧であつたのであるが、今は思うてもよいしない。自分等としては唯先生をのりこゑて前進の一途あるのみと念じてゐる。

それは大正十二年春丁度アダム・スミス生誕記念二百年祭が當大學で行はれ記念展觀が尊攘堂で営まれた時のことである。その時のスミス關係資料の中にオランダ語で書かれたものがあつたが、誰れもよくその意味がとれなかつた。そのうち山本先生が來られそれを見て、自分達に讀んで教へ下すつたことがあつた。當時經濟學部を卒業したばかりの私はこの一つで植民政策をやるには大へんな語學の素養がいるものだと思ひさせられてしまつたのであつたが、昨年臺灣總督府に南方經濟資料調査に行つたとき、そこに陳列されてあるオランダ語で書かれた膨大な蘭印關係資料を見て自分は身は臺灣にありながらスミス記念祭の時オランダ語を讀んで教へて下すつた山本先生の姿をフツと思ひ

出したのであつた。今年再び總督府を尋ねて見るとそれらの資料は南方協會に移され臺灣神社前の立派な協會圖書館に收容されてゐた。今や我が南方經濟は頗る多事、大調査班は設定され大調査マンは要求されてゐる。がしかし果して幾人の人がこの山と整理されてある南方共榮圈資料を消化し得るかを思ふと今更のやうに先生の學問研究に關する遠大の志と計畫とを偲ばざるを得ない。